



YAMATO-NAKA ROTARY CLUB

1817号

会 長	橋本日吉	会長エレクト	入江公敏	事 務 所	大和市大和南 2 丁目 1 番 1 号
副 会 長	高橋 清	幹 事	辻 彰彦		大和中央ビル 301
会報委員会	石川達男	松崎正実	梅田秀雄		TEL 046-262-1717 FAX 046-262-1818
例 会 場	八千代銀行 大和支店 4F (毎週木曜日)				E-mail : naka-office@ynrc.jp
					URL : http://www.ynrc.jp

国際ロータリーテーマ

Be a gift to the world
「世界へのプレゼントになろう」
RI会長 K.R.“ラビ”ラビンドラ

大和中ロータリークラブ会長ターゲット

「みんなのために…
ワクワク楽しく そして仲間を創ろう！」

【本日のプログラム】6月9日 第7回クラブ協議会 「年度終了にあたり」橋本 日吉 会長、辻 彰彦 幹事
【次回予告】6月16日 夜間移動例会 「みんなでワクワク!ロータリー」

【第1812例会】平成28年6月2日(木) 【司会SAA】北砂 明彦 君
【斉唱】「君が代」「それでこそロータリー」 【ソングリーダー】中村 友彦 君
【ゲスト】杉崎泰之様、北島隆太郎様 【ピジター】眞鍋藤正様(大和RC)

会長の時間 橋本 日吉 会長

それでは、お忙しいところ時間を作って頂きました今年度第38代一般社団法人大和青年会議所理事長杉崎泰之君、そして専務理事の北島隆太郎君に一言ずつごあいさつを賜りたいと思います。尚専務理事の北島隆太郎君は、北島会員のご子息さんであります。



有難うございました。益々のご活躍をご期待申し上げます。

さて、皆さん、本日は、皆様にお知らせいたしました、過日行われましたRI規定審議会での定款などの改正に伴い、大和中RC細則の改正が

ございます。本件は、5月12日の理事会にて承認されております。クラブ細則第17条により本細則は、定足数の出席する任意の例会において、出席会員の3分の2の賛成によって改正することができる。又会合第3節において会員総数の3分の1をもって例会の定足数とするとありますので本日会合は、成立いたしております事をご報告いたします。

それでは、大和中ロータリークラブ細則の改正案をご提案申し上げます。お手元の資料をご覧ください。該当箇所は、細則第7条及び第10条です。

何か意見などはございますでしょうか。

ございませんでしたら、改正案に賛成の方は挙手お願いします。出席会員の3分の2を超えておりますので、本件は、賛成多数で承認と致します。本件は7月1日をもって施行日と致します。クラブ細則第17条に6/2一部改訂と補足致します。ご協力有難うございました。

さて、5/28~30ソウル国際大会に8名で参加して参りました。友愛の広場では、各国・各地域のブースが展示しており、興味深かったのはシエ

会員数	出席者	出席率	前々回修正	出席免除	欠席者 7名(敬称略)
42名	31名	81.58%	72.50%	11名	原嶋、橋本(吉)、引田、池澤、北島、苗加、梅野

ルターボックスの展示、実際に被災者が使うテントや救援物資が展示され、東日本大震災の時もロータリーから寄贈され、熊本地震でも一部リサイクルして使われたとのことで、ロータリーが活躍していたとのことでした。

5/29(日)の開会式では、世界の国々の国旗入場が圧巻でした。改めてロータリーの国際性に圧倒されました。世界の隅々まで影響を及ぼしていると実感できました。

ラビンドラNRI会長の祖国スリランカのウイクラマ・シンハ首相も開会式に登壇して、ロータリーの奉仕団体のやくわりの大切さについて、話されました。また国連事務総長バン・基文氏も登壇され開催国の立場からもロータリーの国際奉仕の役割として高い貢献の実績団体とお話をされました。

大変長くなりましたが、この辺で会長の時間を終わりにしたいと思います。

委員会報告

お祝いの方々

親睦活動委員会 長谷川 清 委員長

会員誕生日	中村 友彦 君	6月6日
創業記念日	橋本 吉宣 君	6月5日



卓 話

「ロータリーの親睦とは」

後藤 定毅 会員

4月に規定審議会に出席してきました。今回の規定審議会は従来のロータリーの基本原則を大きく変えるものになりました。すなわち、一業種一人制、週一回の例会出席、これを110年にわたりロータリーは掲げ、そして会員が信奉して発展してきたわけですが、この基本原則を維持するか廃止するかは、クラブが自由に決めて良いというようになりました。



ある意味「ポール・ハリスのロータリーが死んだ日」とも言えるのではないのでしょうか。そして別な表現では「ロータリーのライオンズ化」が始まった日とでも言うことが出来ますでしょうか。

ところで何故ロータリーは一業種一人制なのか、あるいはなぜ週一回の例会出席が必要なのか、ここを考えると「ロータリーの親睦」の意味があるのかも知れません。

ご案内のように創立者ポール・ハリスの職業は弁護士です。少年期、青年期はいろいろな土地にかかわりを持ち、いろいろな職業を経験したうえで、弁護士としてシカゴの町にやってきます。その当時のシカゴは、有名なギャング、アール・カポネが暗躍する無法と腐敗で、犯罪がまかり通っているような街でした。騙すより騙される方が悪いという風潮と、節操のない自由主義がはびこっていた時代でした。そんな街の中では親友が出来るはずありません。しかしそんな街の中で心から語り合える友人がいたらどんなに素晴らしいことだろうというこの発想を基にして、ポール・ハリスが夢見た、何でも話し合える友達が欲しい、信頼信用が出来て、お互いに人生の悩みや困ったことの相談が出来る仲間が欲しい、それにはお互いの職業が異なれば、いろいろな情報を交換し合え、お互いを助け合

うことが出来る、そんな形でロータリーはスタートを切ったわけです。ここに一業種一人制の原点があり、ロータリーの職業分類のルーツ、意味があったわけであります。

次に「週一回の例会出席」ですが、ロータリー・ライフにおける親睦の第一歩は、まず必ず例会に出席することから始まります。そもそもロータリーにおける例会出席は、友情の証でもありません。ロータリーは出席が大変厳しいものですが、そもそも出席が出来ないような人からは友情を期待できないというのが、その大きな理由だったろうと思います。週に一度会員同士が自分の家族以外の人たちと食事を囲んで集まる、この習慣こそが、他に類を見ないロータリーのロータリーたる所以だったのではないのでしょうか。

例会を続けてもしも休んだとしたら、どのような障害が生じるかを考えてみたいと思います。例会には地域のあらゆる職業を代表する会員が出席していますから、一人の会員が休むことによって、他の会員にはその職業に関する情報が得られなくなると同時に、その会員も他の会員以外のあらゆる情報が得られなくなることになります。その意味でも例会出席は特権であると同時に、きわめて重要な義務でもあります。例会の目的は、会員同士が仲良くなって友情を深め、兄弟付き合い、親戚つきあいをするとともに、職業上の発想の交換を通じて、思いやりや分かち合いの精神による事業の持続性を学び、自己改善を図ることにあり、その結果として奉仕の心が育まれてくることに繋がることになるのです。

昔のRI会長で「親睦があつてこそそのロータリーです。真の親睦は、率直、自然、温かさにあふれているものです。親睦が深まるほど、お互いの呼び方が、誰々さんからビルになり、誰々先生からジャックに変わるのです」と言った人がいました。例えばここで言えば親睦が深まるほど、あちらの藤塚さんから勝ちゃんに、番先生から番ちゃんにという具合です。

ロータリーには100人の人がいれば100通りのロータリー観があると言われる。ロータリーは「多様性」を中核の価値観の一つとして基本

原理にしていますし、そもそもロータリーという組織が目指す目的は、人の善意や、奉仕という思いやりの心を育むというものですから、命令や強制をして「ロータリーはこうだ」というものではないわけですから、いろんな意見があつて当然です。いろいろな意見を許しあう、認め合ってきたからこそ、だから100年以上も続いてきたのではないかと、最近はつくづく思うようになりました。

私がクラブ幹事のときのRIテーマは、「ロータリーを楽しもう!」でした。20年以上前のことから、「ロータリーを楽しむ」とは、何事だと言われた人が多かったと聞いていますが、当たり前ですが、みなさんはそれぞれ、年齢、性別、職業、役職、地位、収入さまざまですが、ロータリーの世界では全て平等です。偉い特別な人はいないのです。だからそのためにはできるだけ例会やその他のロータリーの会合に出ることだと思います。宝くじや競輪競馬の賭け事も予想していただいただけではだめなわけですし、買わなければ絶対当たらないのです。同様にロータリーでは特に出会いがなければ、気づきもできませんし、学びもできないように思います。例会も、出ても出なくても良いわけです。しかし参加出席しなければ出会いもなければ何も無いわけですから、良かったのか悪かったのかもわかりません。すべからず特にロータリーは、自分次第、「ワタシシダイ」だと思います。だからロータリーは「Service Above Self」、あるいは「He Profits Most Best Who Serves Best」という標語で、人として会員としてのあるべき理想を求めているのかもしれない。

慶応義塾を創立した福沢諭吉翁の「学問のすすめ」の、「天の上に人をつくらず、天の下に人をつくらず」という有名な言葉は、ロータリー精神の特徴でもあります。その最後の第17編の「人望編」のまた最後で、次のようなことを言っています。このような生き方をしたらどうかという翁の考えをみなさんにお示ししたいと思います。

その第一は、難解な用語ではなく、分かりやすい日本語を用いてわかりやすい表現をしな

い、と言っています。第二に、常に顔色容貌を快活にしなさい、と述べています。苦虫をかみつぶしたような顔をしていると人は近寄ってこない。人と人が接触するところで発展がある。「顔色容貌の活発愉快なるは人の徳義の一カ条」だとまで言っています。第三に、専門だけに閉じこもらず、いろんな人と交際しなさい、と言っています。旧友、古い友、を忘れずに、新友、新しい友を求め、様々な方法で交際をひろげなさい、謙虚にしていなさい、周りは何も教えてくれないので損をすることになるよ、と言っています。この三つの教えは、当たり前なこと、簡単なようですが、そうでもないところが大変に難しいわけがあります。

私の新会員時代、地区大会のRI会長代理だっ

たのでしょうか、昭和天皇のいところでスポーツの宮様と言われた竹田宮恒徳(つねよし)というパストガバナーが見えて、言ったことが強く印象に残っています。その言葉は「みなさんはロータリーの会員にはなられましたが、ロータリアンになったということとは違います。ぜひこれからロータリーを楽しく学び知って戴いて、ぜひロータリアンになって戴くことを期待しています。」という言葉が言われました。今でも昨日のこのように思いだします。

準備不足で大した話が出来ず申し訳ありませんでした。ただ今日参加をしてくださったロータリアンみなさんの善意や思いやりに感謝をして、拙い話を終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

スマイルボックス 神作 彰 副委員長 本日 ¥31,000 累計 ¥703,050

眞鍋 藤正 様(大和RC)

ソウル国際大会では、佐々木、中村両会員が大変お世話になりました。ありがとうございます。

橋本 日吉 会長、辻 彰彦 幹事

一般社団法人大和青年会議所第38代理事長、杉崎泰之君、そして専務理事北島隆太郎君、ようこそお出で頂きました。宜しくお願ひします。

入江 公敏 君、阿萬 正巳 君

大和青年会議所、杉崎理事長、北島専務理事、ようこそお出掛け下さいました。大和RC眞鍋様、お久しぶりです。

梅田 秀雄 君、藤塚 勝明 君、石川 健次 君、横澤 創 君、石川 達男 君、野口 宏 君、古郡 清 君、岸 幸博 君、藤田 方己 君

大和J.C. 理事長杉崎様、専務理事北島様、ようこそ大和中クラブにお越し下さいました。どうぞゆっくりとお楽しみください。

辻 彰彦 君

ソウル国際大会にご参加頂きました大和中RCの代表の皆様、ありがとうございます。神作さんには特に感謝いたします。

上田 利久 君、伊藤 英夫 君、長野 俊八 君
いつも国際ロータリー、そして私たちの大和中ロータリークラブの充実のためにもご尽力を頂いてい

ることに感謝しています。本日の後藤PGの卓話、楽しみにしています。

ソウル国際大会参加者 橋本 日吉 君、後藤 定毅 君、神作 彰 君、藤塚 勝明 君、梅田 秀雄 君、石川 健次 君、長谷川 清 君
RI2016ソウル国際大会に参加して来ました。全員無事に帰国できましたので、ホッとしてスマイルいたします。

高橋 政勝 君

今日の卓話、後藤さんの卓話楽しみにしております。

高橋 清 君

本日の卓話、後藤定毅さんの「ロータリーの親睦とは」楽しみに拝聴致します。

富澤 克司 君

結婚記念日、創業記念日のお祝いをありがとうございます。JCの杉崎理事長、北島専務理事、本日はようこそ。

中村 友彦 君

お世話になっております。誕生日のお祝いありがとうございます。

川名 恵美子 君

中村友彦さん、お誕生日おめでとございます。